

平成13年度岡山市総合政策審議会都市・交通部会（第4回）の主な意見

- 1 日時 平成13年10月16日（火）午後1時30分～4時15分
- 2 場所 市庁舎3階 第3会議室
- 3 出席者 委員13名中8名出席
（内田委員、佐伯委員、佐々木委員、高田委員、村上委員欠席）
岡山市：山内都市整備局長、広瀬まちづくり担当局長、高橋局次長、
池上都市開発部長、青木公園緑地部長、小寺土木部長 ほか
事務局：高橋参事 ほか

4 傍聴者 5名

5 会議概要

- （1）傍聴の許可
- （2）議題の説明、質疑応答及び事務連絡

6 主な意見

岡山市住宅マスタープランについて

- 岡山らしい具体的な政策を打ち出してほしい。
- 中心部に多くの人々が住まいを構えることによって集積度を上げなければ、街のにぎわいは復活しない。空き家率が高く、住宅の量自体はあるかもしれないが、質も考えた住宅を作るべきであり、定期借地権などを利用し、まちなかの空いた土地に、小さくてもよいから中堅所得者層向けの公的な住宅を是非作ってほしい。
- 空き家が多い点について、中心部と周辺部でそれぞれどういう状況で多いか少ないかということ进行分析してみる必要があるのではないかと。中心部で空き家が多いのは高層化すればよい。周辺部で空き家が多いのは需給バランスが崩れているので対策が難しい。
- アパートを借りることが困難な高齢者を積極的に入居させてあげられるような質のよい市営のマンションが必要である。
- 今後予想される人口の都心回帰現象に対し、まちなかの高層化が必要となってくる。例えば、学校の廃校跡地に公営の高層マンションを建てたり、空き地になっている民間の駐車場を定期借地権などで利用していくような方法も考えられるのではないかと。
- 働き盛りの世帯の市外流出現象については、その理由が安くて生活できるということであれば、国道2号バイパスの南の方を市街化区域に編入し、ちゃんとした住宅地をつくっていくというようなことも考えられる。その対策をたてるためには、きちんと原因を把握することが必要である。
- いろいろな人が移り住んでくる理由には、例えば保育所の充足率の高さなど、まちの利便性や住む人の価値観などに基づく様々な要素が考えられる。
- 住宅だけを切り離しての問題ではなく、人が住み生活をするということがいろいろなことに関連しているのだということに十分配慮した総合的なマスタープランにしてほしい

岡山市駐車場及び自転車等駐車場整備計画について

- 条例により自転車駐車場の設置義務がある対象施設のなかに、テナントビルやホテルなどが含まれておらず、実態にあわない。
- 自転車の放置問題も、受け皿である自転車駐車場が不足しているのなら、どうしてもあふれてしまう。それを放置自転車として撤去してしまうというのは疑問であり、むしろ、人を置いてきちんと並べてもらうよう指導をするほうが、安く済むのではないか。
- 駐車場は需給バランスの点でターニングポイントになっており、今までの駐車場をつくるという考え方から、今後は規制していくという考え方になるのではないか。基本的には、増やしていく地域と増やしてはならない地域とに分けて考えていかないと、中心部に駐車場が無節操に増えてしまうのではないかと懸念される。
- 駐輪場については、中心部の駐車場に税制の優遇策などにより一定率の併置を義務づけるようにしたり、駐車場が余っていれば、駐輪場に転用するなど、後追い行政にならないよう規制と誘導をうまくやっていくべきである。
- 車と同様、自転車にも受益者負担を付加し、歩いて住みやすいバリアフリーのまちづくりを進めていくべきではないか。
- 自転車の総量抑制のみならず、環境問題の点からも、逆に自転車利用を推奨する研究もあわせて行ってみたらどうか。例えば、自動車道に比べて整備が遅れている自転車道整備のため、自転車を新たに購入するとき税をかけることも考えてはどうか。また、利用を推進すると、どのような問題が起こってくるのかも考えていく必要があるのではないか。
- 都心部では自転車駐車場が量的に足らず、また、使いにくいことから、放置を引き起こしている。今後は受益者負担の考えで、自転車を使う人と都心部の経営者の両方がそれぞれ義務を果たして自転車駐車場を整備していく必要があるのではないか。

岡山市オムニバスタウン計画について

- バスの車体を各バス会社や路線別に違う色で統一し、色をたどっていけば目的地に行けるようにするなど、車体広告も交通体系を優先して考えてほしい。

中期的な指針」について

(1) 岡山市の土地利用について

- 夜の遊び場などがこれ以上拡散しないよう、一定区域にまとめてしまうような法的規制ができないか。
- 都市というのは、いろいろなものが混在して、ある意味で発展していくものであり、また、規制緩和の時代のなかで、規制一辺倒ではなく、市民がこういうものは要らない、ういうまちにしたいというアイデンティティをもつことが大事ではないか。
- (答申をまとめていくにあたり、) 官がするところをできるだけ特化して具体的に表してほしい。

- 打ち出された方策のすべてを対応していこうとすると結局何もできないことにもなりかねない。重点施策をさらにどのように組み合わせるともっとうまくいくのかなど、もう一つ突っ込んだ提案が必要ではないか。
- 官と民との役割関係のなかで、民の力を引き出すような方策をきちんと入れておくべきである。それによって、民が頑張ってまちづくりを行えば、その結果として、市民が要らないものがまちから排除されていくという筋書きを示してほしい。
- 問題意識としては非常によくまとまっている。
- 土地利用を考えていく上では、目標年次なり人口や産業の将来見通しも必要である。人口増を目指すという岡山市において、それが難しくなることも考えてみると、市街地の制御や規制誘導の方針の点など、必ずしも土地利用のコントロールの仕方として当てはまらないことも出てくるのではないかと思う。
- これからは、中心部の小さい土地をまとめて活用していくような方向性を出していかななくてはならない。
- 岡山市の地勢や土地柄を前提にして、交通体系やまちづくりを考えていかななくてはならない。

(2) 交通政策について

- 中心部における交通手段として、人か自転車か車か、何が重点になってくるのかを予測し、それに対応する施策を考えていくべきである。